

pretty

pretty は、古英語 'prættig' のときは, canny, clever, cunning, fine, nice という意味で使われていた。特に、最初の頃は、canny に代表されるように「(金銭面で)狡猾な」などの「わるい」意味である。これが「良化」と「縮小」の転義を経て、現在では、“(esp. of a woman, a child or a small thing) pleasing to look at, or listen to etc; charming and attractive without being very beautiful or important looking” (*Longman Dictionary of English Language and Culture*) である。日本語に当てはめると、「可愛い、心地よい、きれいな」などとなる。具体的には、pretty baby「可愛い赤ちゃん」、pretty voice「心地よい声」、pretty town「きれいな街」などとなる。辞書によっては「美しい」という訳をつけている場合もあるが、beautiful がもつ「堂々とした見栄えのよさ」とは別の概念とみた方がよい。やや似ている意味の語としては、cute, lovely, little, good-looking, dear などがある。なお、pretty が男子や男性に使われると、「なよなよした、きざな」などとなる。

日本語の「可愛い」は「かわゆい」から転じている(ちなみに「可愛い」は当て字である)。『日本国語大辞典』(小学館)によると、語義は5つに分かれる。大雑把に言えば、①あわれな、②大事にしたい、③かわいらしい(女性や子どもの容姿に対して、子どもの邪心のない様子に対して)、④好ましい、⑤とるに足らぬ、である。このうち、一般に最もよく使われるのは③である。ところが、1990年代あたりからこれに特殊な意味用法が加わって、表示も「カワイイ」とされることが多くなった。この「カワイイ」は、著者の推測によると、2つに分かれる。

1つは、ハローキティなどの人形に対する形容が発端で最初に出てきた「カワイイ」で、若い女性の髪型、服装、靴、飾り物などに当てはめたものである。これが、秋葉原などの「メイドカフェ」の若年女性層の服装などにも取り込まれた。そして、最近

は、「ゆるキャラ」などの姿・格好・表情なども「カワイイ」で、これはコンテストまでおこなわれるほどの文化現象になっている。このポップカルチャーは欧米、アジア、ロシアなどにも「輸出」されている。綴りもローマ字で 'kawaii' や 'Кавайи' (ロシア語、発音は [カヴァーイ]) などで通るようになっている。このままいけば、10年後には、judo, anime, manga などのように世界的に認知される可能性がある。

もう1つは、この「カワイイ」が男性をはじめとして広範囲に、あるいは微妙なニュアンスを持って、使われることである。若い女性(男性もいるが)が、威厳のある紳士の照れている様子や一生懸命になっている様子を見て「カワイイ」と言うのである。校長先生も、社長も、総理大臣も「カワイイ」と形容することがある。さらに、否定的な要素のことは最初に付いて「きもカワイイ」とか「ぶすカワイイ」あるいは「ぶさカワイイ」という言い方も出ている。気持ち悪いけれど愛嬌がある、不細工だけとかわいげがあるという意味だろうか。さらに、「かっこよい」(cool)になる場合もある。このように、カワイイに意味用法は変化しているが、『大辞泉』(小学館)のデジタル版が掲載し始めた、一般の人が使う〈生きた解釈〉の「カワイイ」をみると、「〈可愛い〉は遺伝的魅力である場合が多いが、〈カワイイ〉は努力した結果の魅力」や「自分にとって驚異でない相手に使う。女同士が対象を自分より下だと思ったときに使う」(朝日 2013/10/9 夕刊) などとある。

このような「カワイイ」現象に対しては、いろいろな考え方がある。新しいポップカルチャーとして価値があり日本文化の発信になるとする向きもある。大人になりたくないという今の日本の若者の気持ちの表れで好ましくないとする人もいる。エライ大人たちに対して少女たちからの「下克上」という見方もあるかもしれない。はてさて悩むところであるが、こんな姿もJK(女子高校生)からすれば「カワイイ」と映るかもしれない。